

はじめに

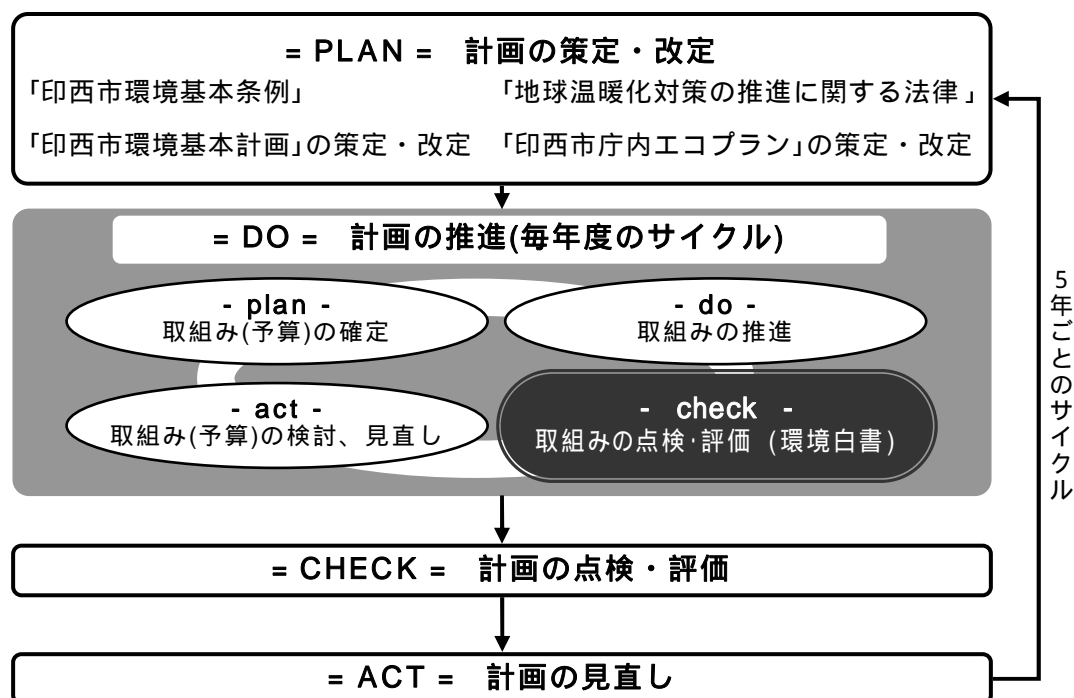
1 環境白書作成の趣旨

印西市では、環境の保全に関する理念や基本的な枠組み等を定めた「印西市環境基本条例」を平成 11 年 4 月に施行し、その具体化に向けて、環境施策を総合的かつ計画的に進めることを目的とした「印西市環境基本計画」を平成 15 年 3 月に策定しました。また、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、市の事務・事業の中で環境に配慮すべき具体的な事項を定めた「印西市庁内エコプラン」を策定しました。

環境基本計画と庁内エコプランでは、1 年ごとの小さな pdca サイクル (plan・do・check・act の繰り返しによる計画推進の仕組み) と 5 年ごとの大きな PDCA サイクルにより、計画全体の継続的な改善を図っていきます。

本環境白書は、1 年ごとの小さな pdca サイクルの“check”(取組みの点検・評価)にあたり、平成 23 年度における環境の現状や環境基本計画に掲げた取組みの実践状況などを点検・評価し、市民の皆様公表する報告書であるとともに、次年度以降の取組み(予算)の検討及び見直しの基礎資料となります。

(進行管理の流れ)



本文中、印の付いている用語の解説は、資料編 P.70 用語解説をご覧ください。

2 環境基本計画の概要

印西市では、これまでの取り組み状況を再確認し、環境に関する新たな法律や社会動向の変化に対応するため、平成 19 年度に環境基本計画の改訂を行いました。

本計画では、環境に関する長期的な目標である「目指す環境の姿」を定め、これを実現するための施策の方向性である 3 つの「基本目標」と 15 の「個別目標」を設定しています。さらに、各個別目標には、担当部署と具体的な施策を示した「環境施策」が対応します。また、市の環境の現状を踏まえ、優先的に対策を講じる必要のある施策として 3 つの「重点プロジェクト」を設定しています。

なお、計画の対象期間は、平成 20 年度（2008 年度）から平成 24 年度（2012 年度）までの 5 年間としています。

目指す環境の姿

大切な自然と安心できる暮らしをみんなで守り、育てるまち いんざい

基本目標 1 自然を身近に感じられる “まちづくり”

昔ながらの自然環境と新たに開発された都市環境が共生していくために、樹林地や農地を守り育てる仕組みの構築や、市民のニーズに対応した公園・緑地の整備・充実、また、さまざまな生き物の保全などを通じて、自然を身近に感じられるまちづくりを進めていきます。

基本目標 2 安心して生活できる “暮らしづくり”

急速な人口増加と宅地開発などにより、家庭からの排水や自動車の排出ガス、ごみなどの日常生活による環境への負荷が増大しています。

市民が安心して生活できるように、限りある資源を大切に、環境への負荷を減らしていくとともに、環境に配慮した循環型社会の形成を目指します。

基本目標 3 みんなで環境を育てる “しくみづくり”

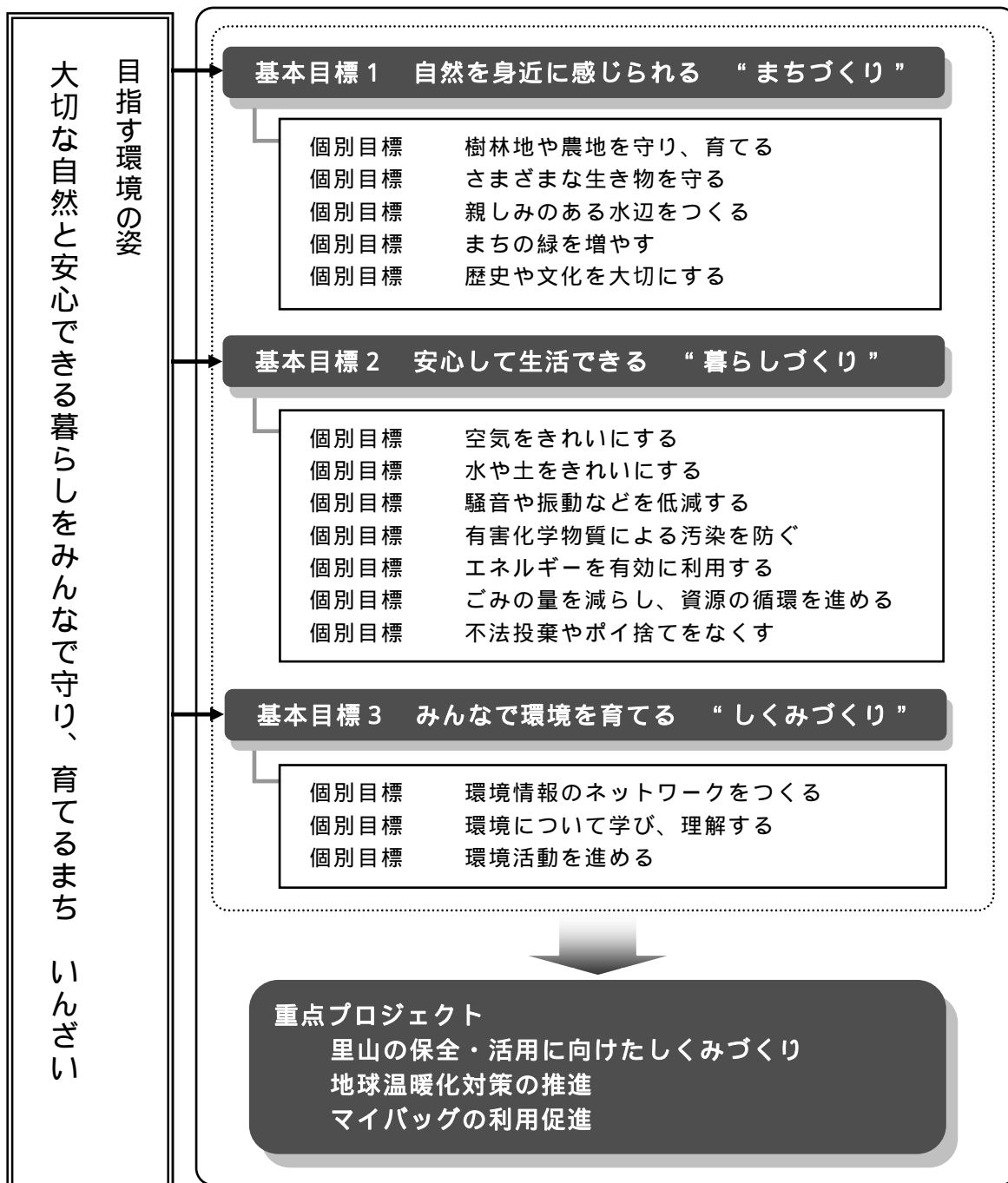
市民・事業者・市の各主体が、環境に関心を持ち、環境に対する人の責任と役割を理解し、環境活動に参加・協働 できるようなしくみづくりを目指します。

また、市民や事業者などからの意見・要望、さらには市民の創意工夫による地域づくりの提言など、市民の声を広く聴くとともに、さまざまな市民活動を支援していきます。

重点プロジェクト

個別目標における市の取組みのうち、印西市の環境をより良くする上で、他の施策より優先的な取組みが求められる施策及び着実な進展が求められる事項を抽出し、「重点プロジェクト」として、より具体的・重点的な取組みを推進していきます。

環境基本計画の体系






3 環境指標の達成状況

環境基本計画では、目指す環境の姿の実現に向けて、将来を展望した長期的な目標（目標年度：平成24年度）を個別目標として示しています。

各個別目標には、その達成状況を知るための目安として環境指標が設定されており、計画の目標値や前年度との比較により、継続的に点検・評価を行っています。




（環境指標の評価の見方）

評価	評価内容
	目標値を達成することができました。
	目標値を達成することができませんでしたが、平成22年度と比較して、目標値に近づいています。
	目標値を達成することができませんでした。平成22年度と比較しても目標値に近づいていません。
-	環境指標の設定、現状値の把握をしていません。

基本目標 自然を身近に感じられる“まちづくり”

平成23年度は自然環境調査を実施し、合併後の市内の生き物の生育・生息状況を把握することができました。市民一人当たりの都市公園面積は平成22年度より0.18m²減少し、目標値の達成にはいたっていません。

環境指標の進捗状況 - 基本目標

個別目標	環境指標	目標値	平成22年度	平成23年度	評価
	緑地面積の割合	39.8 % (緑の基本計画)	55.3 %	55.3%	
	生き物の生育・生息種数	印西市自然環境調査報告書(平成18年3月)における確認種数 (植物:679種 動物 (哺乳類):7種 (鳥類):78種 (爬虫類):6種 (両生類):6種 (昆虫類):129種 (魚類):14種) 現状を維持	平成22年度調査未実施	印西市自然環境調査報告書(平成24年3月)における確認種数 植物:803種 動物 (哺乳類):9種 (鳥類):102種 (爬虫類):11種 (両生類):6種 (昆虫類):387種 (魚類):24種	
	「親しみのある水辺をつくる」は、環境基本計画で指標が設定されていません				
	市民一人当たりの都市公園面積	16.6 m ² (緑の基本計画)	15.71 m ²	15.53 m ²	
	「歴史や文化を大切に作る」は、環境基本計画で指標が設定されていません				

備考) 個別目標の目標値は、環境基本計画では40%以上と設定していますが、緑の基本計画の中間年度(平成22年)の目標値に合わせ、39.8%と変更しています。また、この目標値は旧印西市における目標数値であるため、今後新市に対応した新しい目標値を検討する必要があります。

基本目標 安心して生活できる “暮らしづくり”

安全・安心な生活に関わる大気質や水質、土壌、騒音・振動、ダイオキシン類等の有害化学物質については、市内の現状を継続的に把握するとともに、環境対策の実施や啓発に取り組みました。

環境指標値（個別目標 ～ ）では、大気質、土壌及び道路交通騒音・振動の測定値は目標を達成しましたが、師戸川のBOD濃度は環境基準を超過していました。

なお、下水道普及率、合併処理浄化槽設置率については、合併により市域が拡大していることから、新たな目標値を設定する必要があります。

環境指標の進捗状況 - 基本目標 (1)

個別目標	環境指標	目標値	平成22年度	平成23年度	評価
	二酸化窒素 (NO ₂)濃度 (印西高花測定局)	0.04 ppm 以下 (千葉県環境目標値)	0.028 ppm	0.032 ppm	
	浮遊粒子状物質 (SPM) 濃度 (印西高花測定局)	0.10 mg/m ³ 以下を維持 (環境基準)	0.060 mg/m ³	0.064 mg/m ³	
	亀成川のBOD濃度	3 mg/l 以下を維持 (環境基準)	1.8mg/l	1.5mg/l	
	神崎川のBOD濃度	2 mg/l 以下を維持 (環境基準)	1.1mg/l	1.4mg/l	
	師戸川のBOD濃度	3 mg/l 以下を維持 (環境基準)	3.0mg/l (草深)	4.9mg/l (草深)	
	下水道普及率 (処理区域内人口/行政人口)	現状より増やす	80.0%	80.3%	
	合併処理浄化槽 設置率	64.2 % (印西市第2次基本計画)	57.5%	58.9%	
	土壌の汚染に係る 環境基準の達成状況	全調査地点、全項目の 達成を維持	調査地点:3地点 全項目(28項目)基 準を達成	調査地点:3地点 全項目(28項目)基 準を達成	
	地下水の環境基準の 達成状況	全調査地点、全項目の 達成を維持	調査地点:5地点 全項目(29項目) 基準を達成	調査地点:3地点で 全項目(29項目)基 準を達成	
	道路交通騒音測定値	昼 60 dB・夜 55 dB [A地域] 昼 65 dB・夜 60 dB [B・C地域] 昼 70 dB・夜 65 dB [幹線交通を担う道路に近接 する空間における特例基準] 以下 (環境基準)	県道千葉竜ヶ崎線 (木下1401-45付近) [B・C地域] 昼 73 dB・夜 73 dB	県道千葉ニュータウン南環状線 (高花2丁目6地先) [A地域] 昼 66 dB・夜 59 dB	
	道路交通振動測定値	昼 65 dB・夜 60 dB [第1種区域] 昼 70 dB・夜 65 dB [第2種区域] 以下を維持(要請限度)	県道千葉竜ヶ崎線 (木下1401-45付近) [第1種区域] 昼 53 dB・夜 45 dB	県道千葉ニュータウン南環状線 [第1種区域] 昼 35 dB・夜 26 dB	

備考1) 個別目標の道路交通騒音に関する目標値の幹線交通を担う道路に近接する空間における特例基準は、高速自動車国道、一般国道、県道及び市道(市道に当たっては4車線以上の区間に限る。)に適用します。平成22年度及び平成23年度は、測定地点が県道であるため、この特例基準と比較しました。

省エネルギーの取組みについては、市内エコプランの推進により、市が率先してエネルギー使用量削減やごみの排出抑制に努めるとともに、市民・事業者に対する情報提供や啓発を図りました。環境指標（個別目標）では、太陽光発電システム設置基数は大幅に増加しました。平成22年度の市民一人当たりの二酸化炭素排出量は前年（平成21年度）を上回りました。

環境指標の進捗状況 - 基本目標（2）

個別目標	環境指標	目標値	平成22年度	平成23年度	評価
	ダイオキシン類 大気環境濃度	0.6 pg-TEQ/m ³ 以下を維持(環境基準)	印西市役所 0.027 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.036pg-TEQ/m ³	印西市役所 0.058 pg-TEQ/m ³ 印西高花測定局 0.040pg-TEQ/m ³	
	ダイオキシン類 水質環境濃度	1.0 pg-TEQ/l 以下を維持(環境基準)	印西市大森地先 0.046 pg-TEQ/l	-	-
	ダイオキシン類 土壌環境濃度	1000 pg-TEQ/g 以下を維持(環境基準)	平賀地区構造改善 センター 0.91 pg-TEQ/g	滝野公園 0.84 pg-TEQ/g	
	印西クリーンセンター の煙突出口における ダイオキシン類測定値 (年平均値)	1 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持(排出基準)	1号炉 0.17 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.057 ng-TEQ/Nm ³	1号炉 0.11 ng-TEQ/Nm ³ 2号炉 0.035 ng-TEQ/Nm ³	
		0.5 ng-TEQ/Nm ³ 以下を維持(排出基準)	3号炉 0.044 ng-TEQ/Nm ³	3号炉 0.017 ng-TEQ/Nm ³	
	一人当たりの 二酸化炭素排出量	平成13年度レベル 5.77 t-CO ₂ /年を維持	6.28 t-CO ₂ /年 (平成21年度値)	6.46 t-CO ₂ /年 (平成22年度値)	
	太陽光発電システム 補助金交付基数 (累計基数)	141基 (印西市第2次基本計画)	348基	529基	
	太陽熱温水器設置 補助金交付基数 (累計基数)	50基 (印西市第2次基本計画)	25基	34基	







備考1) 個別目標「印西クリーンセンターの煙突出口におけるダイオキシン類測定値」は、印西地区環境整備事業組合の提供資料によります。なお、3号炉については「印西クリーンセンターの操業及び公害防止に関する協定書」により、排出ガスの基準が0.5 ng-TEQ/Nm³以下と定められています。

備考2) 個別目標「市民一人当たりの二酸化炭素排出量」については、当該年度のデータを把握できないため、前年度のデータを報告しています。なお、排出量算出方法の詳細は資料編P.66に示すとおりです。

ごみ減量に関する環境指標（個別目標）では、一人1日当たりのごみ排出量が829gで目標値を達成していますが、平成22年度より増加しました。一方、市資源化率と総資源化率は平成22年度より低下し、目標値を達成しませんでした。

不法投棄件数は合併により市域が拡大したことや不法投棄現場調査の取組みを強化したことにより前年度より大幅に増加し、平成23年度は498件が報告されています。「クリーン印西推進運動」登録団体数は平成22年度より3団体増加し、165団体でした。

環境指標の進捗状況 - 基本目標 (3)

個別目標	環境指標	目標値	平成22年度	平成23年度	評価
	一人1日当たりのごみの排出量	866g (印西市ごみ減量計画)	809g	829g	
	市資源化率	21% (印西市ごみ減量計画)	17%	16%	
	総資源化率	28% (印西市ごみ減量計画)	23%	21%	
	不法投棄件数	0件	228件	498件	
	「ゴミゼロ運動」参加団体数	現状より増やす (印西市第2次基本計画)	208団体	春:雨天中止 (対象218団体) 秋:151団体	
	「クリーン印西推進運動」登録団体数	現状より増やす (印西市第2次基本計画)	162団体	165団体	

基本目標 みんなで環境を育てる “しくみづくり”

市内の小中学校や図書館、市の広報紙、ホームページなどさまざまな媒体を通じて環境情報の提供と普及・啓発を図っています。平成 23 年度における環境情報の提供回数は 24 回で、目標値を達成しています。

また、印西市では環境について学習する機会を提供するとともに、市民が主体となって実施する環境活動や環境学習 への支援を実施しており、平成 23 年度における環境講座や環境イベントの開催数は 15 回となり、目標値を達成しました。

市内で活動している環境活動団体数は、29 団体となり目標を達成しました。

環境指標の進捗状況 - 基本目標

個別目標	環境指標	目標値	平成 22 年度	平成 23 年度	評価
	環境情報の提供回数	24 回を継続	24 回	24 回	😊
	環境講座、環境イベントなどの開催回数	12 回	12 回	15 回	😊
	こどもエコクラブ登録件数	7 件	2 件	2 件	😞
	環境活動団体数	17 団体	24 団体	29 団体	😊
	「いんざい環境フェスタ」の来場者数	現状より増やす (印西市第 2 次基本計画)	6,000 人	3,000 人	😞



4 環境の現状と今後に向けて

世界と日本の環境の現状

世界全体の二酸化炭素排出量は増加傾向にあり、日本の平均気温は 100 年あたり約 1.2 (1898~2010 年) 上昇しています。日降水量 100 ミリ以上の大雨や、猛暑日の増加など、身近なところにも影響が及んでいることを感じられるのではないのでしょうか。

こういった地球温暖化問題に対応するため、国際的には京都議定書 が採択されており、その第一約束期間以降 (2013 年以降) の温室効果ガス 排出削減に関する国際交渉が進められています。2011 年 11~12 月に開催された締約国会議 (COP17) では、京都議定書第二約束期間を設定し削減義務が延長されたこと、また、京都議定書に代わる新しい枠組みづくりは先送りとなり、遅くとも 2015 年末までに交渉を終え、2020 年初めの実施を目指すこと等が決定されました。

また、世界における物資循環・廃棄物に関する状況は、経済成長と人口増加に伴う廃棄物の増大が顕著で、2050 年における世界全体の廃棄物発生量は 2000 年の 2 倍以上となる見通しが示されています。日本では省資源型社会への移行が進みつつありますが、さらなる資源生産性の向上や最終処分場の確保などに今後も取り組んでいく必要があります。

近年、保全のための取組みが進められている生物多様性 については、国際自然保護連合 (IUCN) が公表しているレッドリスト 2011 によると、評価対象種の 32%にあたる 19,265 種が絶滅の危機にあるとされています。日本においても、平成 22 年度に公表された生物多様性総合評価 では、「生物多様性の損失は全ての生態系に及んでいる」とし、保全と持続可能な利用に向けた取組みが求められています。

日本国内の現状に目を向けると、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は環境にも多大な影響を与えました。建築物の倒壊等により、膨大な量の災害廃棄物が発生し、適切かつ迅速な処理が大きな課題となっています。また、原発事故により一般環境へ放出された放射性物質の継続的監視や、汚染された廃棄物の処理、土壌の除染等の対応も求められています。

大規模な災害を経験し、今後復興していくわが国において今、エネルギー政策を含め、持続可能な社会のあり方、人と人や地域とのつながりなどを見直す「変化」が求められています。

印西市の環境の現状と今後に向けて

印西市は、千葉県でも水辺環境に恵まれている地域であるとともに、歴史文化財に恵まれ、樹林地や農地、公園等の緑が多く残る「人々のやすらぎの場」、「生き物の生育・生息空間」が保たれた地域です。

しかし、近年の急速な都市化の影響も顕著で、農地や雑木林など身近な自然環境の減少や自動車の交通渋滞、道路や家庭からの騒音、ごみのポイ捨てや不法投棄の増加など様々な問題が指摘されています。

こうした中、印西市では平成 19 年度に改訂した環境基本計画に基づき、環境の保全と創出に関する各種施策を推進するとともに、庁内エコプランに沿って、庁内の事務・事業から発生する環境負荷を可能な限り軽減する取組みを進めてきました。

その結果、平成 23 年度は環境基本計画に定める環境指標 31 項目のうち 21 項目（昨年度は 21 項目）で目標を達成しました。基本目標 「自然を身近に感じられるまちづくり」は 3 項目中 2 項目、基本目標 「安心して生活できる“暮らしづくり”」は 23 項目中 16 項目、基本目標 「みんなで環境を育てる“しくみづくり”」は 5 項目中 3 項目で目標を達成し、各基本目標の半数以上の項目が目標を達成しており、取組みの成果が表れてきたものと言えます。

一方、個別目標ごとにみると、「まちの緑を増やす」、「エネルギーを有効に利用する」、「ごみの量を減らし、資源の循環を進める」は多くの項目で目標を達成することができませんでした。これらは今後より積極的な取組みが求められます。

環境保全のための取組みは、市民や事業者の皆さんの協力が不可欠です。

環境基本計画に定める目指す環境の姿「大切な自然と安心できる暮らしをみんなで守り、育てるまち いんざい」は、人と人、地域と地域が協力し合い、先人たちが残した豊かな環境を将来の世代に引き継いでいくという思いを形にしたものです。これを実現するため、市民・事業者・市が協働のもと、目標の達成に向けた取組みを推進し、またその成果や情報を市民・事業者の皆さんと共有することで、環境保全のための次の行動へとつなげていくことが大切です。



5 環境審議会委員からの意見・提言

平成 24 年度版環境白書について、環境審議会委員から意見・提言がありました。

これらの意見は、今後の課題として、平成 25 年度の環境施策等に活かしていきます。

原発事故による放射性物質汚染について、情報公開と住民目線の安全対策を推進されたい。

遊休地、未利用地を活用した太陽光エネルギー、風力エネルギーの有効活用、バイオマス等の持続可能エネルギー開発の推進を検討されたい。

再生可能エネルギーの重要性が高まっているため、印西市の再生可能エネルギー普及率を示し、目標を検討されたい。

環境経営に熱心な企業からの派遣授業を小中学校の環境教育として検討されたい。

不法投棄の現状についての分析・対策が不足しており、緊急かつ重大な課題と思われるため、不法投棄の発生場所を地図で示す等、工夫して意識化に努められたい。

歩行喫煙とポイ捨てに対しどのように取り組むのか、市条例が機能しているのか等について記載を検討されたい。

リサイクル事業実施に関して、リユース・リサイクルのコストと効果を把握し、環境会計の推進を検討されたい。

6 環境推進(市民・事業者)会議委員からの意見・提案

平成 24 年度版環境白書について、環境推進会議委員から意見・提案がありました。

環境負荷の低減、地球温暖化防止のためにも、再生可能エネルギーの普及啓発に今後も務められたい。

竹林繁茂の対策など、緑地の保全に努め、また育成していくため、人材育成、ボランティアへの支援、緑地保全のための仕組みづくりを検討されたい。

生物多様性に配慮した環境づくり、農地や里山、水辺の保全に努められたい。

市内の自然を観察・体験・学習できる自然観察館・博物館の設置を長期的に検討されたい。

放射性物質による汚染の調査の継続、除染の実施、低線量被ばくへの対応等、情報公開により安心して過ごせる環境づくりに努められたい。

地球温暖化防止の対策として、レジ袋からマイバックへの転換、地産地消の推進、ゴミの分別、環境家計簿の更なる普及の具体的方策の強化等に努められたい。

今後とも環境に配慮したまちづくり・都市計画を進められたい。

「環境都市宣言」の宣言について検討されたい。

次世代を担う子ども達の環境保全意識を啓発する事業を検討されたい。

不法投棄、ポイ捨て防止のため、対策強化及び意識啓発等に努められたい。

環境基本計画・環境白書・環境行動指針等を、より多くの市民の方々に理解していただくための方策を検討されたい。



平成 19 年度版



平成 20 年度版



平成 23 年度版



平成 21 年度版



平成 22 年度版